

東京都新宿区北新宿1-8-16  
東京土建一般労働組合  
電話03 (5332) 3971 (代表)  
FAX03 (5332) 3972  
発行人・編集人  
三木 勉

印刷部数11万4300部  
(購読料は組合費のなかに含まれています)  
(年間購読料 千八百円)  
定価 五十円

# けんせつ

東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

### アスベスト補償 基金シンポジウム

補償基金制度創設のシンポジウムを開催します。訴訟原告だけでなく、すべての建設アスベスト被害者への補償をめざします。「日時と場所」  
7月4日、13時30分、衆議院第一議員会館大会議室



## 全都426会場で 組合の魅力広がる

### 足立

# 15000人で賑わう

## 花保は技術アピールさらに

「こっち。こっち」と子どもたちが手を振って声をあげ、高所作業車のゴンドラに乗った仲間が勢いよくお菓子をまきます。

絶好の好天に恵まれた足立支部花保分会の住宅デーは、6月3日、花畑東部区画12号



高所作業車のゴンドラからお菓子まきに子どもたちの歓声があがった

公園で行なわれ、約1500人の親子連れを中心とした来場者で賑わいました。

冒頭で紹介したお菓子まきを2回行った他には、子どもたちが大喜びのウォーターボール、エアトランポリン、さりのかに釣りに、建設職人の技

術を披露しながら体験できる「左官体験」「カンナ削り」「銅板細工」等々、また食べ物コーナーもやきそば、かき氷など人気のメニュー、もちろん住宅相談コーナー、包丁研ぎの定番もありと、目移りしてしまうほど企画は充実。

### 多摩・稲城 職人の心意気伝え さくらに多摩市長来訪

6月3日に小野神社公園・一ノ宮児童館前で、多摩・稲城支部多摩さくら分会の住宅デーが行なわれました。当日は、集団健診もあり、忙しい中での開催でしたが、28人の参加(組合員・家族・地域団体含む)がありました。

「この会場で行なう住宅デーは、特に子ども連れが多いので、田舎の村のような催しをイメージしています」と話すのは、住宅デー担当の新留副会長。

菓箱や一輪挿コースターなどの工作教室、スマートフォンや輪投げなどの縁日コーナーは、子どもたちに大人気。また、地元「どんぐりの会」のコーナーでは、どんぐりク



阿部多摩市長(右)が来訪

ツキー作りに夢中になる親子の姿がみられました。

午前中、視察に訪れた阿部裕行多摩市長は、「みんなが楽しみにしている地域に密着した行事。包丁研ぎやまな板削りは、自分も出したことがあり、本当に新品同様になりました。この取り組みを通じて、物を大事にする心や職人の心意気を伝えてもらい、それがまた何かあった時に地元職人さんに頼もうというところになっていくのでは」と話してくれました。

また設計士として活躍されることも、支部役員を歴任されるなか、公契約条例制定の活動や世田谷区建設団体の防災協議会での防災活動・社会貢献活動に多大な功績をあげられ、組合と行政との深い信頼関係の構築につながりました。

### 春の拡大月間 全都で4387人が加入

## 組織機能を活かしてつなげる

春の拡大月間は年間拡大率6・5%突破、月間残目標が4・0%以上の支部は4・0%を目標に、全都で1%以上の実増をめざし、3月27日から6月1日の臨時登録日まで取り組みました。

6月当初人員は11万5195人となり、1月比126人減、1月比0・11%減となりました。支部では月間4%達成21支部、年間6・5%達成8支部です。また1月比実増は4支部、うち1%以上実増は4支部です。青年部、シニア友

都目標を達成しました。この月間で社会保険未加入対策の波が起らないことは、昨年の秋に証明済みであり、分会・群の組織機能を活かした仲間のつながりを引き出すことが重要となりました。連日奮闘された全都の仲間の皆さんに感謝申し上げます。

### 西田浩人副委員長が急逝

## 前厚生文化部長として尽力

西田浩人本都副委員長 日急逝されました。享年62 (世田谷・設計) が5月20 歳でした。



西田浩人副委員長

西田さんは1991年に東京土建に加入、2004年から世田谷支部書記長、2014年から2015年まで執行委員長を務められ、2016年からは本都常任中央執行委員として厚生文化部長の任にあたり、共済活動の先頭にたって奮闘されました。今年度、本都副委員長としてさらに重責を担う決意をされていた

矢先の悲報となりました。また設計士として活躍されることも、支部役員を歴任されるなか、公契約条例制定の活動や世田谷区建設団体の防災協議会での防災活動・社会貢献活動に多大な功績をあげられ、組合と行政との深い信頼関係の構築につながりました。

### 朝やけ

■上野の国立科学博物館で開催していた企画展「沖縄の旧石器時代が熱い！」を観た。石垣島の白保竈根洞窟遺跡では2万3000年前の人類骨が発見された。当時の墓地と推定され、人骨の散乱状況から風葬が行なわれたようだ。また沖縄本島には3万6500年前の日本最古となる幼児の脚の骨が出土した山下町第一洞窟遺跡がある。

■いずれも貴重な人類史に残る遺産だが、沖縄には希少動物が生息する豊かな自然遺産が現在も残されている。政府はユネスコに申請していた奄美・沖縄の自然遺産の推薦を取り下げたが、登録されることでかけがえのない自然を守ることにつながる。そのための課題のクリアが必須となるのだが、そこに立ちふさがるのが一部返還された沖縄本島北部訓練場跡地の存在だ。

■政府は今後、訓練場跡地も自然遺産推薦地に追加する方針だ。しかし訓練場跡地には米軍が破壊した弾薬が残り、毒性の強い農薬も残留しているという。そうした環境をそのままにして、自然遺産として登録されることはないだろう。環境の浄化が必要だし、そもそも軍用機が飛び交うなかでこれからの貴重な生態系が維持できるのか。この際だから北部訓練場の全面返還を要求しても良いのではないだろうか。